

抜歯後に喉頭浮腫を発症した1例

兼井彩子 比野平恭之 仲島孝昌

肥後隆三郎 洲崎春海

昭和大学医学部 耳鼻咽喉科学教室

Laryngeal edema due to infection following tooth extraction

Ayako KANEI, MD, Yasuyuki HINOHIRA, MD, Takamasa NAKAJIMA, MD,

Ryuzaburo HIGO, MD, Harumi SUZAKI, MD.

Department of Otorhinolaryngology, Showa University School of Medicine.

We experienced a rare case of laryngeal edema following tooth extraction. A 25 year-old man without any systematic diseases was referred to our department, complaining of severe pharyngeal pain and high fever. He had had wisdom tooth extraction in the right side of the jaw two days before. The previous ENT doctor had punctured the swollen gingiva after tooth extraction and administered antibiotic intravenous drip on the same day as the reference.

Endoscopic findings showed the swelling of the oropharynx to the larynx in the right side. We diagnosed him as laryngeal edema due to infection following tooth extraction although CT scan did not show abscess formation. Intravenous medication of antibiotics and corticosteroid were given, and then his symptoms improved.

Laryngeal edema due to infection following tooth extraction is rare and has potential of the upper air way obstruction. Early diagnosis and appropriate treatments are important to avoid tracheostomy.

はじめに

口腔内には細菌、真菌、ウイルスをはじめとする微生物が常在しており、これら常在菌により細菌が口腔内から血液中へ侵入し、内因感染症が発症する。口腔内の外科的な処置が加わると感染の頻度はさらに高くなる。

今回、我々は抜歯後の内因感染により喉頭浮腫を生じた1例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者) 25歳男性

主 訴) 発熱, 咽頭痛

現病歴) 近医歯科にて右下顎智歯の抜歯を行い、セフカペンピボキシル3錠/分3, リゾチーム6錠/分3, ロキソプロフェンナトリウム1錠/頓用の内服をしていた。抜歯の翌日から38度の発熱, 咽頭痛をきたしたため近医救急内科を受診した。抜歯部位の周囲に腫脹があり, 右前口蓋弓,

右咽頭側壁から右下咽頭，披裂部にかけての腫脹を認めた。咽頭の穿刺を受けたが排膿はなかった。抗菌薬とステロイドホルモンの点滴投与を受けたが疼痛が増悪し，経口摂取が困難となったため同日に当院へ紹介受診となった。

初診時所見)

体 温：38.0℃， 血圧：124/70mmHg， 脈拍：90/分， 開口障害があり1.5横指であった。

口腔， 咽喉頭所見：前医の所見と同様に拔牙部位（右下顎智歯）周囲に腫脹， 右咽頭側壁に発赤， 腫脹を認めた。 喉頭ファイバーでは右下咽頭から喉頭披裂部にかけて腫脹（▲）を認めた。（Fig. 1）

採 血：WBC $13.3 \times 10^3 / \mu\text{l}$ （好中球 93.5%）， CRP 9.88 mg/dL と炎症反応の上昇を認めたが， 肝機能や腎機能に異常値は見られなかった。

頸部造影 CT：明らかな膿瘍形成は認めなかったが， 拔牙部を中心に炎症性変化と考えられる陰影が広がっていた。（Fig. 2）

経 過）

菌原性の炎症を強く疑って当院歯科に紹介受診

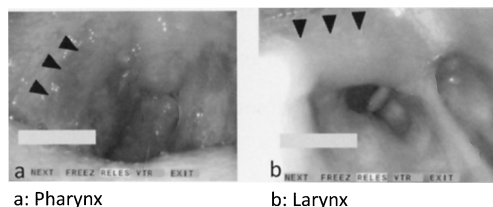
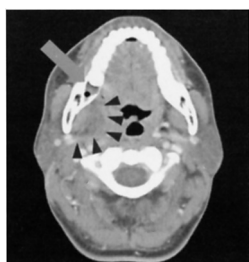


Fig. 1 Endoscopic findings. a: Pharynx, b: Larynx



The round enhanced lesion (▲) adjacent to the extracted tooth was seen.

Fig. 2 Enhanced CT image in the neck. The round enhanced lesion (▲) adjacent to the extracted tooth (↓) was seen.

した。 歯科にて拔牙部位の粘膜縫合を外し， 開放創とする処置を行った。 縫合を外した際に排膿は認めなかった。 拔牙後感染症による喉頭浮腫と診断し， 入院の上絶食としメロペネム 0.5g × 3回 / 日， クリンダマイシン 600mg × 3回 / 日， ヒドロコルチゾン 300mg / 日の点滴投与を開始した。 翌日には解熱し右咽頭側壁から喉頭披裂部にかけての腫脹が改善したため， 5分粥からの経口摂取を開始した。 入院後の経過を Fig. 3 に示す。

歯科併診にてうがいを中心とした口腔ケアを行い， 自覚症状， 他覚症状ともに軽快したため第8病日に退院となった。

考 察

拔牙後感染の発生頻度は一般に数%程度と考えられているが， 2～3%から20%台まで報告者¹⁾によって異なる。 拔牙後の蜂窩織炎から死亡に至った症例²⁻¹²⁾の報告があり， 脳膿瘍¹³⁾や感染性心内膜炎¹⁴⁾など他の臓器に重篤な感染をきたすこともあるため， 抗菌薬の予防投与も含めた慎重な感染対策が要求されている。

拔牙が誘因となった蜂窩織炎の原因菌は下顎智歯菌が最も多い¹⁵⁾。 智歯周囲に疎性結合組織が多いことや， 下顎大臼歯は骨密度が高く血流供給も上顎に比較して劣ることなどから感染しやすいとの指摘がある¹⁶⁾。 また咀嚼筋群が付着しているため， 咀嚼運動により炎症が広がりやすいなど解剖学的要因や局所免疫が関与している¹⁷⁾との報告もある。

拔牙後感染の好発年齢は20歳代と40～50歳代にピークがあるとされている。 20歳代での智歯の拔牙が多いことがピークの原因と考えられるが， 40～50歳代での拔牙後感染の原因は不明である。 糖尿病など易感染性の患者が含まれていた可能性もあるが， 拔牙後の蜂窩織炎が基礎疾患のない若年層にも見られるため， 全身的に免疫能の低下をきたす何らかの要因があったものと考えられる。 疲労やストレスが免疫能を低下させる可能性が指摘されており¹⁸⁾， 40～50歳代での拔牙後感染の

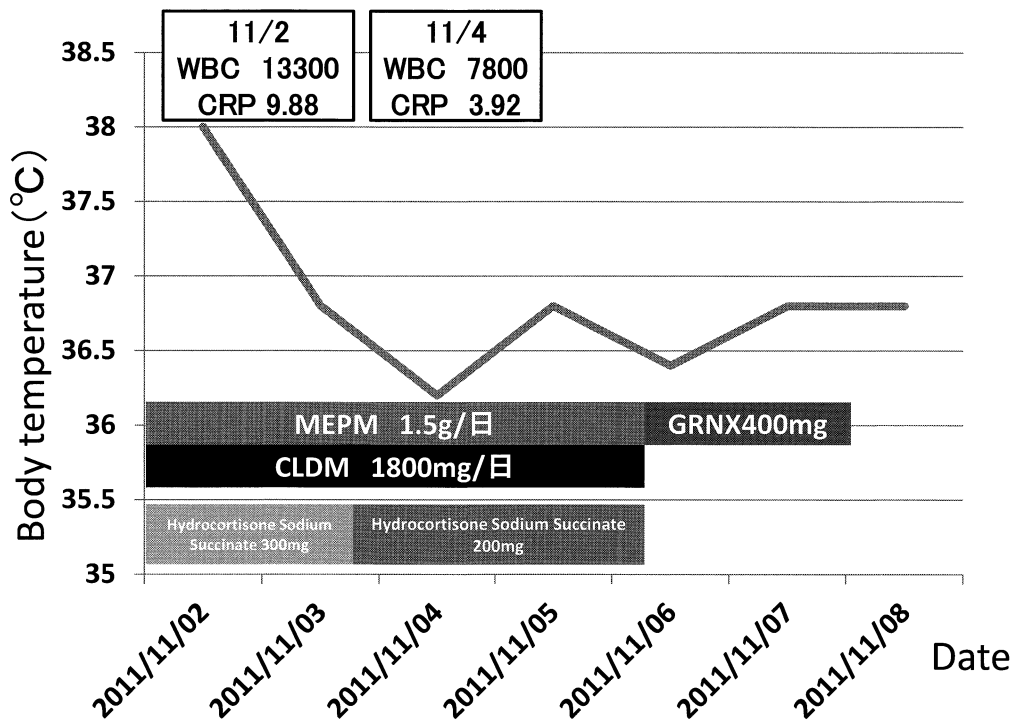


Fig.3 The clinical course and treatments.

原因については今後の検討が必要である。他の要因として、埋伏度が深くなるにつれて¹⁸⁾、また抜歯にかかる時間が長くなるにつれて感染頻度が高くなる¹⁹⁾との報告がある。本症例では全身疾患の合併はなく、原因菌は下顎智歯であり、年齢は20歳代で埋伏度は深く水平埋伏タイプであった。抜歯の所要時間としては特別な問題はなく15分程度であった。

ま と め

25歳男性の抜歯後蜂窩織炎を経験した。全身疾患の合併がない青年男性で抜歯後、経口抗菌薬の投与を受けていたにもかかわらず、感染による急速な炎症の波及から喉頭浮腫を認めた。

喉頭浮腫は気道閉塞を生じうる可能性があり、咽喉頭の所見を十分に観察し、迅速かつ適切に対応することが重要である。

【 参 考 論 文 】

- 1) 佐々木次郎：抜歯と感染症。歯科ジャーナル（別冊）260～274，1988
- 2) 川合正和，他：ガス産生を伴った頸部蜂窩織炎の1例。耳鼻臨床72：931～935，1986
- 3) 矢野高英，他：口腔領域におけるガス壊疽の1例。日口外誌32：2530～2531，1986
- 4) 藤本政明，他：頸部に発生したガス形成菌感染症の1例。耳喉頭頸60：657～661，1988
- 5) 風岡強聰，他：顔面に発生したガス壊疽の1例。日口外誌36：2824～2829，1990
- 6) 遠藤邦彦，他：縦隔炎を併発した菌性感染症の1例。日口外誌36：1060～1065，1990
- 7) 原田次郎，他：非クロストリジウム性頸部ガス壊疽の一症例。耳鼻臨床51：192～199，1991
- 8) 松山浩吉，他：頸部ガス壊疽の2症例。口咽科6：130，1993

- 9) 川越弘就, 他: 口腔蜂窩織炎の臨床的検討
第5報: 抜歯後感染から死亡した一例. 歯
療法 12: 256, 1993
 - 10) 高橋雅幸, 他: ガス産生性頸部蜂巣炎の1例.
口科誌 43: 991, 1994
 - 11) 神谷祐司: 不幸な転帰をとった抜歯後感染の
1例. JAPSI 4: 27-29, 1997
 - 12) 浅井豊, 他: 縦隔洞炎を併発した急性口底蜂
窩織炎の2例. 日口外誌 27: 1435 ~ 1442,
1981
 - 13) Renton, TF., et al: Cerebral abscess com -
plicating dental treatment. Case report and
review of the literature. Australian Dental
Journal 41: 12-15, 1996
 - 14) 佐々木次郎: くすりの適剤一処歯科で用いる
抗菌薬のすべて 第1版 150 ~ 165 デンタル
ダイヤモンド社 東京 1995.
 - 15) 山崎隆廣: 抜歯後感染に関する臨床検討, 歯
薬療法, Vol. 18 NO. 2 1999
 - 16) 茂木健司: 抜歯創の治癒経過に関する臨床的
検討. 口科誌. 29: 449 ~ 459, 1980
 - 17) 中尾 薫: 重症菌性感染症の実態と課題. 口
腔感染予防研究会雑誌 1: 11-13, 1993
 - 18) 吉位 尚: 口腔頸部における重症蜂窩織炎と
抜歯後感染の関連性 智歯抜歯後感染の問題
点について, 歯薬療法 Vol. 18 No. 3, 1999
- 連絡先: 兼井彩子
〒142-8666
東京都品川区旗の台1-5-8
TEL 03-3784-8563 FAX 03-3784-0981
E-mail ak-color@live.ne.jp